TAMRON
Focus on the Future

2026年12月期
第3四半期　決算説明資料

2026年11月5日（木）

株式会社タムロン（証券コード：7740）

目次



Ⅰ. 2026年 第３四半期実績 …… P 03～

Ⅱ. 2026年 通期計画 …… P 13～

Ⅲ.長期ビジョン／次期中期経営計画「Value Up29」骨子 …… P 19～
（※6月16日開示済み 参考情報）

Ⅳ. 参考情報 …… P 31～

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅰ.2026年　第３四半期実績

Ⅰ-1. 総括

経営環境

経済環境

- ◆ 地政学リスク長期化や米国の通商・関税政策により、世界経済の先行き不透明感
- ◆ 対ドル・ユーロで想定以上の円安が推移し、売上・利益ともに押し上げ要因に
- ◆ インフレによる部材コスト高止まりに加え、国内外の人件費上昇トレンドが継続

市場環境

- ◆ レンズ交換式カメラ・交換レンズ市場：カメラ・レンズ共に数量ベースは減少も、ミラーレスの高付加価値シフトと円安効果により金額ベースは堅調に推移
- ◆ 監視・FA市場：監視は先進国向け高精細ニーズが堅調、FAも需要回復・底堅い推移
- ◆ 車載市場：ADAS普及に伴う高度なセンシングレンズ需要により、成長トレンド継続

当社業績

- ◆ **Q3　：2桁の増収増益（全てのセグメントで2桁の増収増益を達成）**
- ◆ **Q3累計：増収減益**

売上高　：前年比+8% ― 写真OEM製品の大幅な減収影響があったものの、他ビジネスにおける好調が下支えし増収

- ➢ 写真関連事業　・OEM製品　：前年下期から継続する一部受注機種の販売低迷により、-15%の大幅減収
  ・自社ブランド製品：地域別に濃淡はあるものの、全体としては増収
- ➢ 監視＆FA関連、モビリティ＆ヘルスケア、その他事業：旺盛な需要とこれまでの営業・開発成果等により、産業向け事業の2セグメント共に約1.3倍の増収

営業利益：前期比-6% ― Q3では2桁の増収増益に転じるも、上期の減益幅が大きくQ3累計では増収減益。
上期における利益率の高い写真関連事業における減収影響や、部材コスト高による粗利減、R&D強化や人件費上昇による販管費増が大きく影響

トピック

事業関連

- ◆ 1月　：世界初「採血のいらない非侵襲血糖値センサー」開発のライトタッチテクノロジー社への出資
- ◆ 6月　：世界初の「メタサーフェス近赤外光源」の実用化成功
- ◆ 9月　：「レーザー溶接加工ソリューション分野」へ新規参入を発表
- ◆ 10月：自社ブランド新製品5機種の発売発表
  ⇒年間新機種発売目標10機種以上となる11機種達成へ

経営方針・戦略関連

- ◆ 2月：長期ビジョン（2035年の目指す姿）を刷新
- ◆ 6月：長期ビジョンの定量目標刷新および2029年に向けた次期中期経営計画『Value Up29』骨子を策定
- ◆ 6月：資本効率向上と株主還元強化に向けた配当予想の修正（増配）および新たな株主還元方針の発表
- ◆ 7月：ESG投資指数「FTSE JPX Blossom Japan Index」初選定

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.

Ⅰ-2. 実績

◆ **Q3　　：2桁の増収増益、営業利益率も約20%と高水準**

◆ **Q3累計　　：増収営業減益も、粗利段階での増益に転換**

売上高（増収）　：写真関連事業におけるOEM製品の受注低迷が継続したものの、他2事業セグメントの大幅増収持続により、グループ全体としては増収を確保

売上総利益・粗利率：利益率の高い写真関連事業の減収影響に加え、中東情勢の緊迫化に伴う物価高から原材料費・光熱費・物流費の高騰等により粗利率低下も、粗利段階での増益に転換

営業利益（減益）　：研究開発の強化や物価高に伴う人件費上昇などによる販管費の増加は吸収しきれず、営業減益

(単位：百万円)

	25年 Q3実績	**26年 Q3実績**	前期比 金額	前期比 率
売上高	21,389	**24,807**	+3,418	+16.0%
粗利益	9,393	**10,779**	+1,386	+14.8%
粗利益率	43.9%	43.5%	-0.4pts	–
販管費	5,210	5,866	+656	+12.6%
営業利益	4,183	**4,912**	+729	+17.4%
営業利益率	19.6%	19.8%	+0.2pts	–
経常利益	4,200	**4,864**	+663	+15.8%
経常利益率	19.6%	19.6%	－pts	–
純利益	3,177	**3,470**	+293	
純利益率	14.9%	14.0%	-0.9pts	–
USD/JPY	147.47	159.42	+11.95	–
EUR/JPY	172.35	183.50	+11.15	–

(単位：百万円)

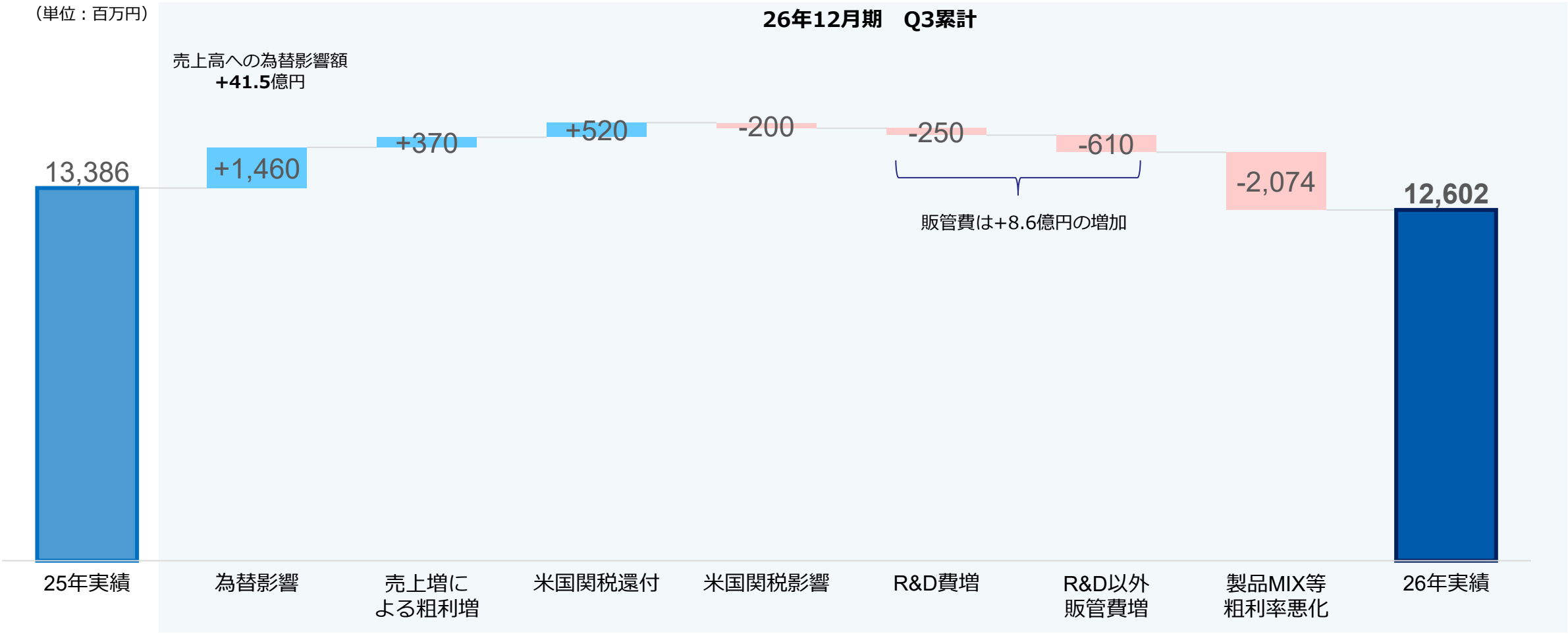
	25年 Q3累計実績	**26年 Q3累計実績**	前期比 金額	前期比 率
売上高	63,103	**68,088**	+4,984	+7.9%
粗利益	28,311	28,910	+599	+2.1%
粗利益率	44.9%	**42.5%**	-2.4pts	–
販管費	14,924	16,308	+1,383	+9.3%
営業利益	13,386	**12,602**	-784	-5.9%
営業利益率	21.2%	18.5%	-2.7pts	–
経常利益	13,470	**12,605**	-864	-6.4%
経常利益率	21.3%	18.5%	-2.8pts	–
純利益	10,059	**9,668**	-391	-3.9%
純利益率	15.9%	14.2%	-1.7pts	–
USD/JPY	148.10	158.68	+10.58	–
EUR/JPY	165.75	184.23	+18.48	–

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅰ-3. 営業利益変動要因

◆ 製品ミックス等による悪化による粗利減が大きく、研究開発強化や人件費UPによる販管費増もあり利益減

（単位：百万円）



Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅰ-4. セグメント別実績　①写真関連事業

Q3では2桁の増収増益に転じるも、上期でのマイナスをカバーするまでには至らず

- ◆ **自社ブランド：**中国での市場在庫過多影響による大幅減収を、米国・欧州・インドの2桁増収でカバーし、全体としては増収
- ◆ **OEM：** 前年下期より続く一部受注機種の販売低迷が継続し、写真事業全体の押し下げ要因に
- ◆ **利益面：** 上期での売上減少に伴う利益押し下げ効果に加え、原材料費・光熱費の高騰、R&D費や人件費の増加が利益を圧迫

Q3実績

(単位：百万円)	25年 Q3実績	26年 Q3実績	前期比 金額	前期比 率
売上高	15,131	**17,006**	+1,875	+12.4%
営業利益	3,925	**4,495**	+570	+14.5%
営業利益率	25.9%	**26.4%**	+0.5pts	–

Q3累計実績

(単位：百万円)	25年 Q3累計実績	26年 Q3累計実績	前期比 金額	前期比 率	為替影響 (対前年レート) 金額
売上高	45,114	**44,541**	-573	-1.3%	+25.3億円
営業利益	12,328	**10,439**	-1,889	-15.3%	+7.7億円
営業利益率	27.3%	**23.4%**	-3.9pts	–	–

26年市況

	Q3 数量 前年比	Q3 金額 前年比	Q3累計 数量 前年比	Q3累計 金額 前年比
レンズ交換式カメラ計	-22%	-8%	-11%	+0%
一眼レフ	-53%	-45%	-36%	-38%
ミラーレス	-19%	-6%	-8%	+2%
交換レンズ	-18%	+2%	-7%	+3%

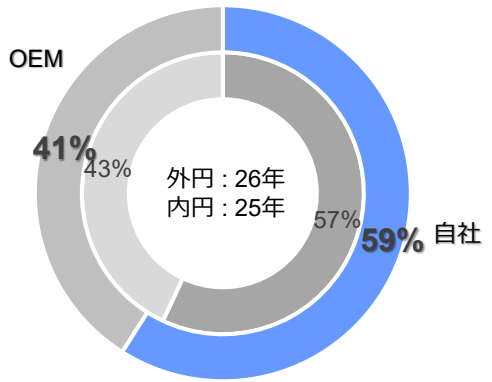
Q3 売上高内訳

		25年 Q3実績	26年 Q3実績	前期比 金額	前期比 率
金額 (億円)	**自社**	94	**93**	-1	-1.6%
	OEM	57	**77**	+20	+35.6%
数量 (万台)	**自社**	13	**12**	-1	-9.0%
	OEM	18	**21**	+3	+17.2%

Q3累計 売上高内訳

		25年 Q3累計実績	26年 Q3累計実績	前期比 金額	前期比 率
金額 (億円)	**自社**	259	**264**	+5	+2.1%
	OEM	192	**181**	-11	-5.8%
数量 (万台)	**自社**	36	**34**	-2	-4.7%
	OEM	60	**49**	-11	-17.6%

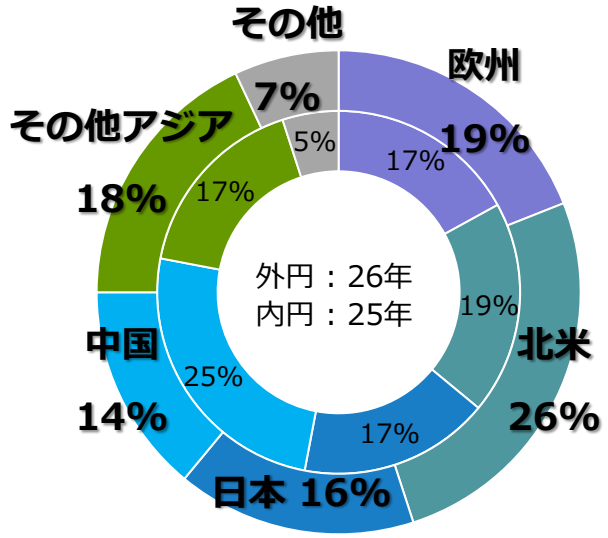
Q3累計 売上構成比



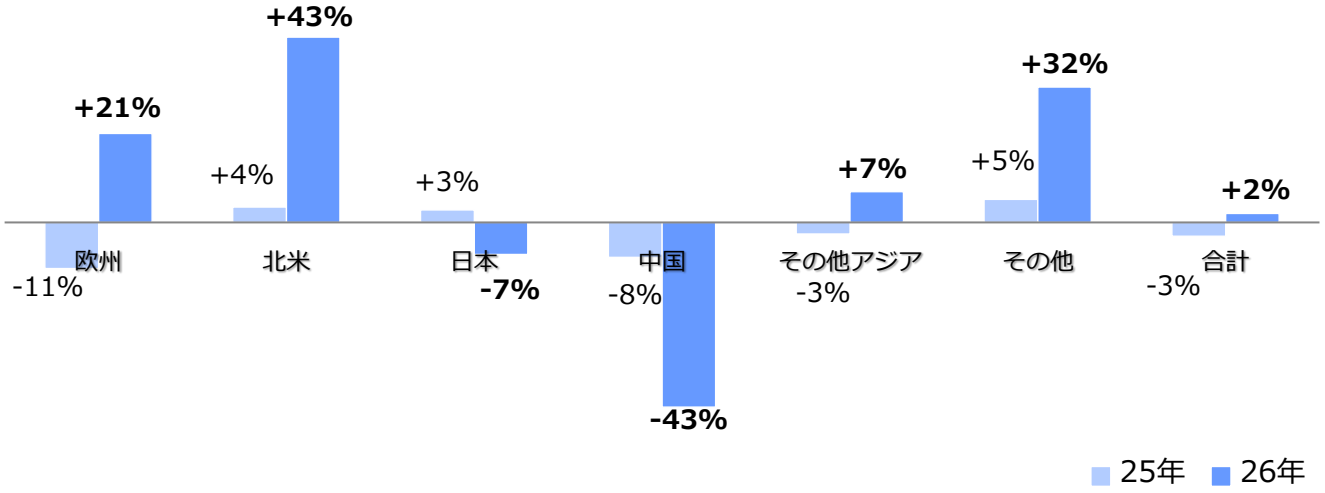
Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅰ-4. セグメント別実績　①写真自社ブランド　地域別Q3累計売上高

地域別売上構成比（金額ベース）



地域別売上増減率(対前年同期・円換算ベース)



交換レンズ市場状況

地域別構成比（金額ベース）

	25年	26年
欧州	22%	22%
米州	25%	25%
日本	10%	10%
中国	23%	21%
その他アジア	15%	17%
その他	5%	5%
合計	100%	100%

地域別出荷増減率

	25年（前年比）		26年（前年比）	
	数量	金額	数量	金額
欧州	+3%	+7%	-9%	+1%
米州	+4%	+0%	-7%	+4%
日本	-18%	-14%	+6%	+13%
中国	+8%	-11%	-17%	-7%
その他アジア	+2%	+3%	+5%	+17%
その他	+18%	+13%	-0%	-3%
合計	+2%	-2%	-7%	+3%

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅰ-4. セグメント別実績　②監視＆FA関連事業

上期同様に2桁の増収増益がQ3も継続

- **監視レンズ：** 高精細・高解像ニーズの拡大および用途の多様化をとらえ、先進国市場向けを中心に販売が好調に推移
- **FA：** 顧客側の在庫調整の影響が一巡し、需要回復を捉えて売上高は前年同期比約1.5倍と大幅増収
- **TV会議レンズ：** 市場全体の低迷が続くものの、既存主要機種の底堅い需要に支えられ、前年並みの売上水準を維持
- **カメラモジュール：** 中国市場および欧州向け需要の増加により、2桁増収を達成
- **利益面：** 原材料価格高騰による粗利率低下やR&D費の増加があったものの、大幅な増収に伴う粗利の増加により、2桁増益

Q3実績

(単位：百万円)	25年 Q3実績	26年 Q3実績	前期比 金額	前期比 率
売上高	3,061	**4,042**	+980	+32.0%
営業利益	321	**591**	+269	+83.9%
営業利益率	10.5%	**14.6%**	+4.1pts	–

Q3累計実績

(単位：百万円)	25年 Q3累計実績	26年 Q3累計実績	前期比 金額	前期比 率	為替影響(対前年レート) 金額
売上高	9,038	**11,753**	+2,715	+30.0%	+7.6億円
営業利益	1,250	**1,618**	+367	+29.4%	+2.3億円
営業利益率	13.8%	**13.8%**	－pts	–	–

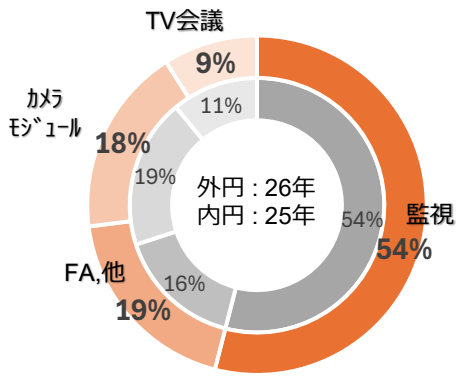
Q3 売上高内訳

		25年 Q3実績	26年 Q3実績	前期比 金額	前期比 率
金額(億円)	監視	17	**22**	+5	+29.8%
	FA、他	4	**7**	+3	+70.2%
	TV会議	4	**4**	+0	+3.0%
	ｶﾒﾗﾓｼﾞｭｰﾙ	6	**7**	+1	+28.5%
数量(万台)	監視＆FA計	36	**45**	+9	+26.4%

Q3累計 売上高内訳

		25年 Q3累計実績	26年 Q3累計実績	前期比 金額	前期比 率
金額(億円)	監視	48	**64**	+16	+32.3%
	FA、他	15	**22**	+7	+48.1%
	TV会議	10	**11**	+1	+6.0%
	ｶﾒﾗﾓｼﾞｭｰﾙ	17	**21**	+4	+21.4%
数量(万台)	監視＆FA計	94	**128**	+34	+35.9%

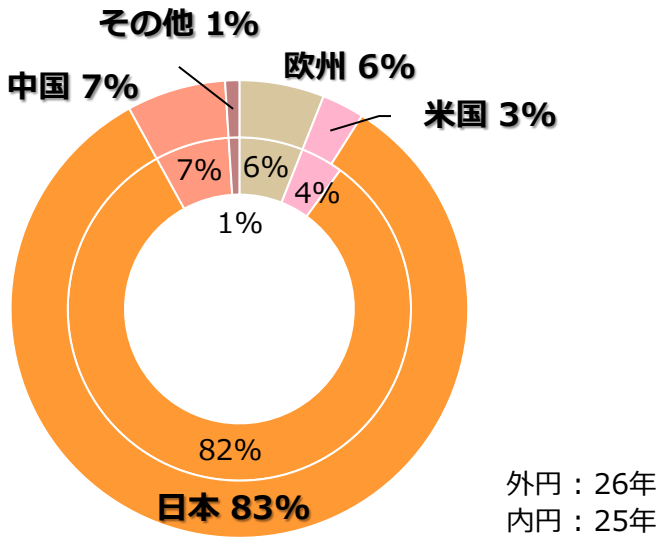
Q3累計売上構成比



Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

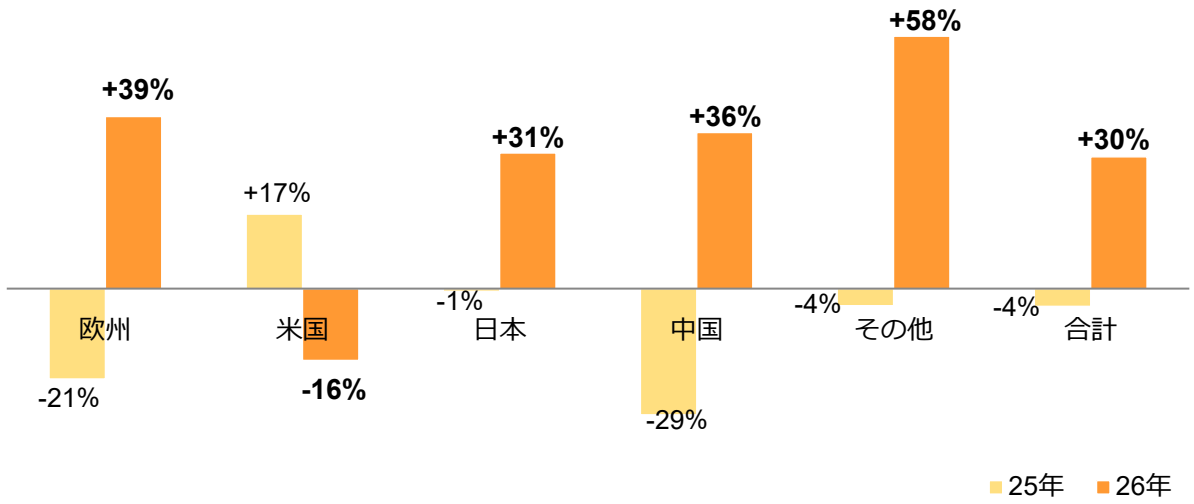
Ⅰ-4. セグメント別実績　②監視＆FA関連事業 拠点別 Q3累計売上高

拠点別 売上構成比（金額ベース）



外円：26年
内円：25年

拠点別 売上増減率(対前年同期・円換算ベース)



Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅰ-4. セグメント別実績　③モビリティ＆ヘルスケア、その他事業

上期同様に2桁の増収増益がQ3も継続、注力分野の医療は売上倍増

◆ **車載：** 先進運転支援システム（ADAS）の普及に伴う高度なセンシングカメラ需要が引き続き旺盛であり、堅調な増収基調を継続
◆ **医療：** 低侵襲医療（身体への負担が少ない治療）を支える製品ラインナップの拡充が奏功し、前年同期比2倍以上の大幅増収を達成
◆ **利益面：** 大幅な増収に伴う粗利の増加が寄与し、約1.4倍の増益。なお、為替の好影響を除外した実質ベースでも増収増益を確保

Q3実績

(単位：百万円)	25年 Q3実績	26年 Q3実績	前期比 金額	前期比 率
売上高	3,195	**3,758**	+562	+17.6%
営業利益	721	**854**	+133	+18.5%
営業利益率	22.6%	**22.7%**	+0.1pts	–

Q3累計実績

(単位：百万円)	25年 Q3累計実績	26年 Q3累計実績	前期比 金額	前期比 率	為替影響 (対前年レート) 金額
売上高	8,951	**11,793**	+2,841	+31.7%	+8.6億円
営業利益	2,063	**2,841**	+777	+37.7%	+4.6億円
営業利益率	23.1%	**24.1%**	+1.0pts	–	–

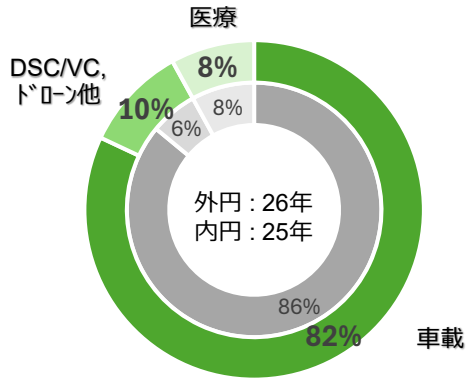
Q3 売上高内訳

		25年 Q3実績	26年 Q3実績	前期比 金額	前期比 率
金額 (億円)	車載	28	**31**	+3	+10.7%
	医療	2	**3**	+1	+83.1%
	DSC/VC, ﾄﾞﾛｰﾝ他	2	**4**	+1	+48.5%

Q3累計 売上高内訳

		25年 Q3累計実績	26年 Q3累計実績	前期比 額	前期比 率
金額 (億円)	車載	77	**96**	+19	+25.6%
	医療	6	**12**	+6	+104.4%
	DSC/VC, ﾄﾞﾛｰﾝ他	7	**10**	+3	+37.9%

Q3累計売上構成比

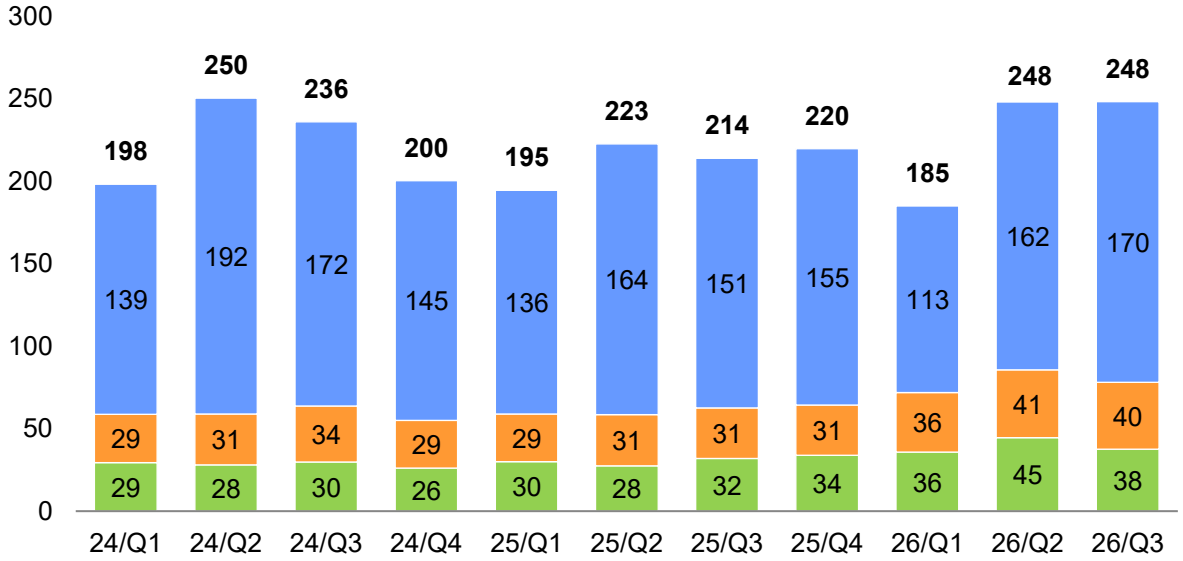


Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

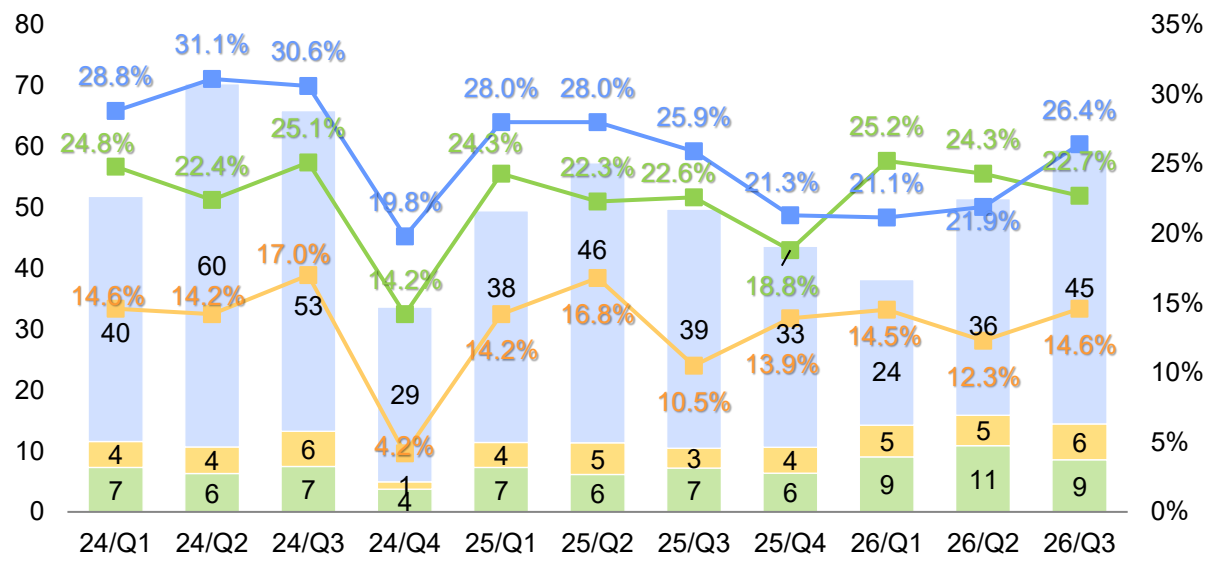
Ⅰ-5.セグメント別　四半期業績推移

（単位：百万円）		24年 Q1	前同比 (%)	24年 Q2	前同比 (%)	24年 Q3	前同比 (%)	24年 Q4	前同比 (%)	25年 Q1	前同比 (%)	25年 Q2	前同比 (%)	25年 Q3	前同比 (%)	25年 Q4	前同比 (%)	26年 Q1	前同比 (%)	26年 Q2	前同比 (%)	26年 Q3	前同比 (%)	前期比 (%)
写真関連	売上高	13,944	+45.0	19,152	+38.7	17,228	+21.3	14,510	-5.8	13,569	-2.7	16,413	-14.3	15,131	-12.2	15,529	+7.0	11,305	-27.2	16,228	-1.1	17,006	+12.4	+4.8
	営業利益	4,019	+50.8	5,959	+55.2	5,263	+33.3	2,868	-19.3	3,803	-5.4	4,599	-22.8	3,925	-25.4	3,301	+15.1	2,390	-27.6	3,553	-22.7	4,495	+14.5	+26.5
監視＆FA関連	売上高	2,939	-8.6	3,072	+38.6	3,403	+47.2	2,899	+42.0	2,878	-2.1	3,098	+0.8	3,061	-10.0	3,053	+5.3	3,602	+18.0	4,108	+32.6	4,042	+32.0	-1.6
	営業利益	428	+48.4	437	+52.6	578	+462.2	121	+222.6	409	-4.5	520	+18.9	321	-44.4	424	+248.4	523	+23.2	503	-3.2	591	+83.9	+17.5
ﾓﾋﾞﾘﾃｨ＆ﾍﾙｽｹｱ その他	売上高	2,935	+73.6	2,809	+27.5	2,970	+18.3	2,609	+18.5	3,003	+2.3	2,751	-2.0	3,195	+7.6	3,384	+29.7	3,577	+5.7	4,457	+62.0	3,758	+17.6	-15.7
	営業利益	729	+156.3	630	+63.8	745	+46.8	371	+18.0	729	+0.0	613	-2.8	721	-3.2	636	+71.2	901	+41.8	1,085	+77.0	854	+18.5	-21.3
連結	売上高	19,819	+36.5	25,034	+37.3	23,602	+24.0	20,019	+1.9	19,451	-1.9	22,263	-11.1	21,389	-9.4	21,967	+9.7	18,485	-15.9	24,795	+11.4	24,807	+16.0	+0.0
	営業利益	4,547	+72.9	6,292	+63.6	5,892	+59.1	2,469	-27.9	4,235	-6.9	4,967	-21.1	4,183	-29.0	3,251	+31.7	3,441	+5.8	4,247	-14.5	4,912	+17.4	+15.7

売上高



営業利益・営業利益率



Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅱ.2026年 通期計画

Ⅱ-1. 2026年 通期計画

◆ 上期実績：写真関連事業の減収影響により、増収ながらも営業減益

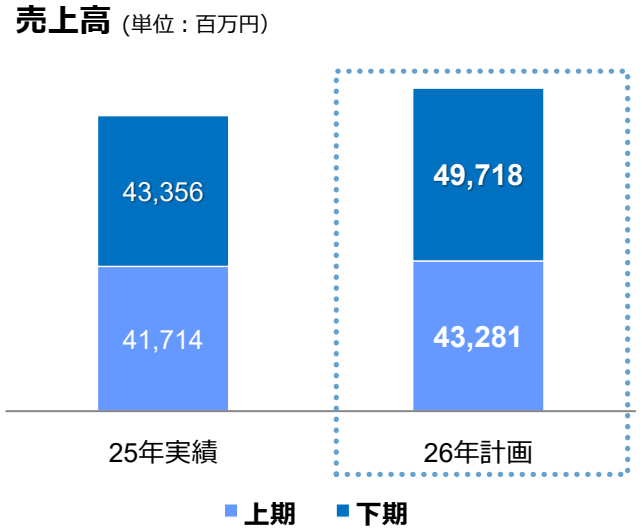
◆ 下期見込：全セグメント増収増益によって、2桁の増収増益への転換を見込む

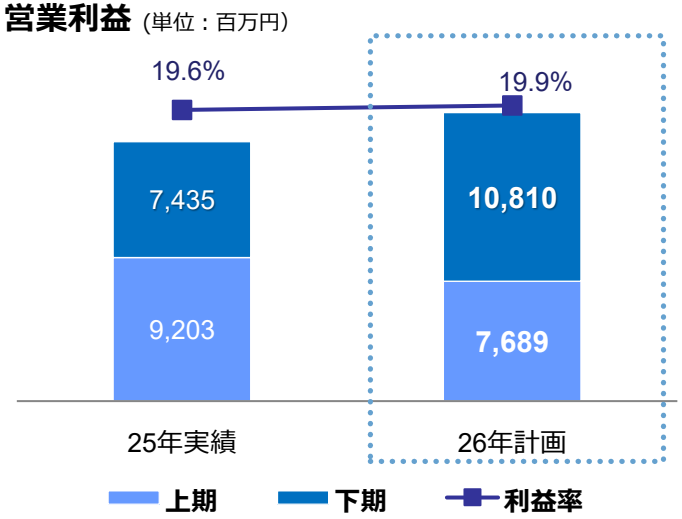
◆ 原材料価格や物流コストの上昇等の影響、交換レンズ市場の弱含み感が懸念されるものの、通期での増収増益を目指す

※26年計画数値は8/7発表の修正計画から変更しておりません。

(単位：百万円)

	25年 実績	26年 計画	前期比 金額	前期比 率
売上高	85,071	**93,000**	+7,928	+9.3%
営業利益	16,638	**18,500**	+1,861	+11.2%
営業利益率	19.6%	19.9%	+0.3pts	–
経常利益	16,699	**18,500**	+1,800	+10.8%
経常利益率	19.6%	19.9%	+0.3pts	–
純利益	11,761	**13,690**	+1,928	+16.4%
純利益率	13.8%	14.7%	+0.9pts	–
USD/JPY	149.63	159.16	+9.53	–
EUR/JPY	169.24	182.31	+13.07	–





Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅱ-2. セグメント別：①写真関連事業　2026年通期計画

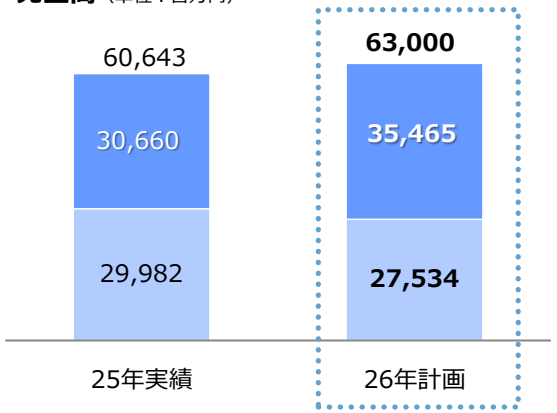
- ◆ 上期実績：中国市場での在庫の解消遅れ、昨年下期より継続するOEMの一部受注機種の販売低迷により減収減益
- ◆ 下期見込：下期での挽回により通期で増収増益を目指すが、中国における在庫解消の長期化、Q3での日本・欧州における減速感等の懸念あり

※26年計画数値は8/7発表の修正計画から変更しておりません。

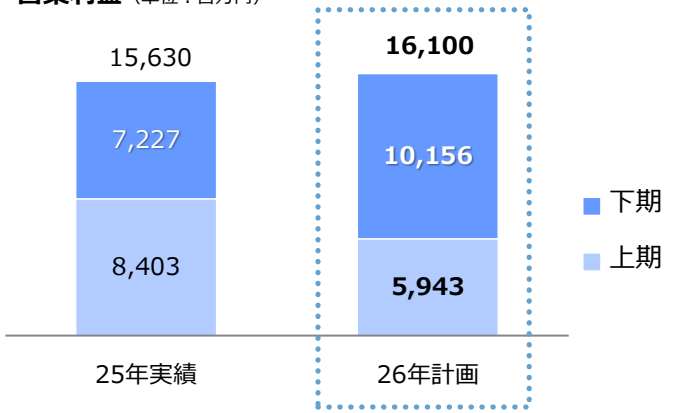
通期計画

(単位：百万円)	25年 実績	26年 計画	前期比 金額	前期比 率
売上高	60,643	**63,000**	+2,356	+3.9%
営業利益	15,630	**16,100**	+469	+3.0%
営業利益率	25.8%	**25.6%**	-0.2pts	－

売上高（単位：百万円）



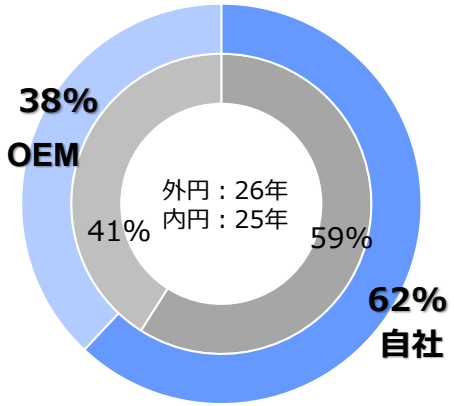
営業利益（単位：百万円）



売上高内訳

		25年 実績	26年 計画	前期比 額	前期比 率
金額 (億円)	**自社**	359	**390**	+31	+8.5%
	OEM	247	**240**	-7	-2.9%
数量 (万台)	**自社**	49	**51**	+2	+3.0%
	OEM	77	**67**	-10	-12.7%

通期売上構成比



Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅱ-2. セグメント別：写真関連事業　自社ブランド新製品投入状況

◆23年以前：年間5本程度 ⇒ 26年中期方針：年間6～7本　⇒ **26年ver2.0方針「26年に年間10本以上」の11本投入を達成**

	2024年（7本）			2025年（6本）			2026年（10本以上予定）				
ソニー Eマウント用レンズ 累計 24 本	6月発売  50-300mm F/4.5-6.3 VC VXD (A069)	8月発売  28-300mm F/4-7.1 VC VXD (A074)	10月発売  90mm F/2.8 VXD (F072)	7月発売  16-30mm F/2.8 VXD G2 (A064)		11月発売  25-200mm F/2.8-5.6 VXD G2 (A075)	3月発売  35-100mm F/2.8 VXD (A078)		8月発売  12-20mm F/2.8 (A084)		10月発売  16-50mm F/2.8 (B091)
ニコン Zマウント用レンズ 累計 14本	4月発売  28-75mm F/2.8 VXD G2 (A063)	9月発売  50-400mm F/4.5-6.3 VC VXD (A067)	10月発売  90mm F/2.8 VXD (F072)	8月発売  16-30mm F/2.8 VXD G2 (A064)	8月発売  18-300mm F/3.5-6.3 VC VXD (B061)	10月発売  70-180mm F/2.8 VXD G2 (A065)	3月発売  35-100mm F/2.8 VXD (A078)	7月発売  17-70mm F/2.8 VC RXD (B070)	8月発売  12-20mm F/2.8 (A084)	10月発売  20-40mm F/2.8 VXD (A062)	11月発売  16-50mm F/2.8 (B091)
キヤノン RFマウント用レンズ 累計 4本			12月発売  11-20mm F/2.8 RXD (B060)		9月発売  18-300mm F/3.5-6.3 VC VXD (B061)			7月発売  17-70mm F/2.8 VC RXD (B070)			10月発売  16-50mm F/2.8 (B091)
富士フイルム Xマウント用レンズ 累計 5本											12月発売  16-50mm F/2.8 (B091)

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.

TAMRON
Focus on the Future

Ⅱ-2. セグメント別：②監視＆FA関連事業　2026年通期計画

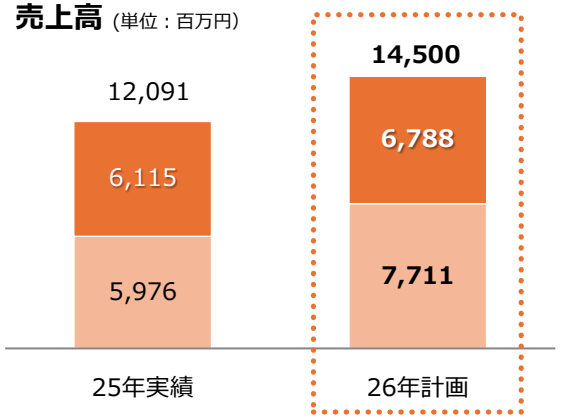
- ◆ 上期実績：すべての製品群における増収により2桁の増益増益。対計画でも上回って推移
- ◆ 下期見込：カメラモジュールの部品不足による出荷停滞影響等もあるが、2桁の増収増益を見込む

※26年計画数値は8/7発表の修正計画から変更しておりません。

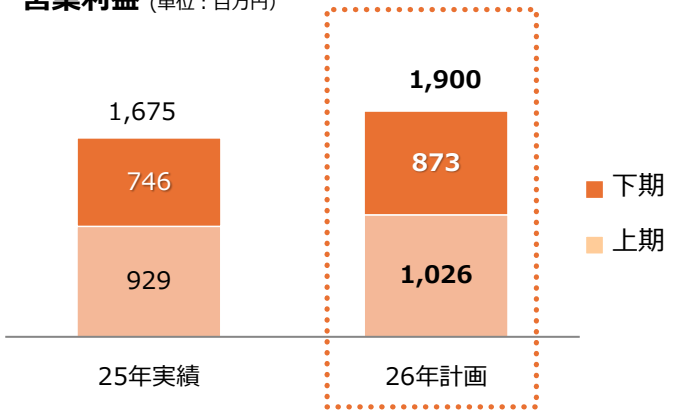
通期計画

(単位：百万円)	25年 実績	26年 計画	前期比 金額	前期比 率
売上高	12,091	**14,500**	+2,408	+19.9%
営業利益	1,675	**1,900**	+224	+13.4%
営業利益率	13.9%	**13.1**	-0.8pts	−

売上高 (単位：百万円)



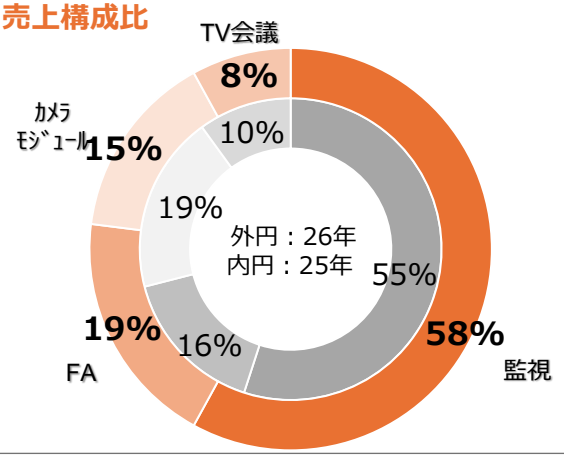
営業利益 (単位：百万円)



売上高内訳

		25年 実績	26年 計画	前期比 額	前期比 率
金額 (億円)	**監視**	67	**84**	+17	+25.7%
	FA	20	**28**	+8	+42.3%
	TV会議	12	**12**	+0	+1.0%
	ｶﾒﾗﾓｼﾞｭｰﾙ	22	**21**	-1	-6.7%
数量 (万台)	**監視＆FA計**	129	**167**	+38	+29.1%

通期売上構成比



Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅱ-2. セグメント別：③モビリティ＆ヘルスケア、その他事業　2026年通期計画

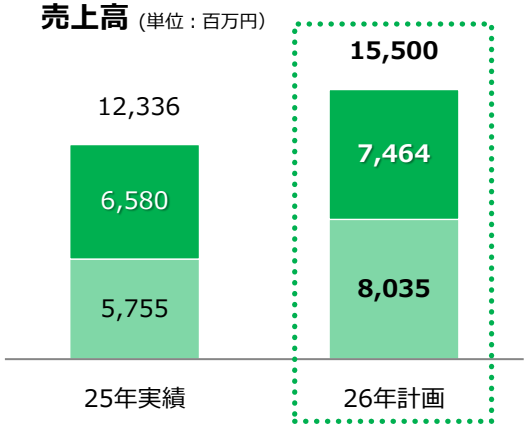
- ◆ 上期実績：主力の車載、注力分野の医療がともに好調に推移し、2桁の増収増益。対計画でも上回って推移
- ◆ 下期見込：下期はコストダウン対応等の影響や次世代分野への投資・R&D強化もあるが、2桁の増収増益を見込む

※26年計画数値は8/7発表の修正計画から変更しておりません。

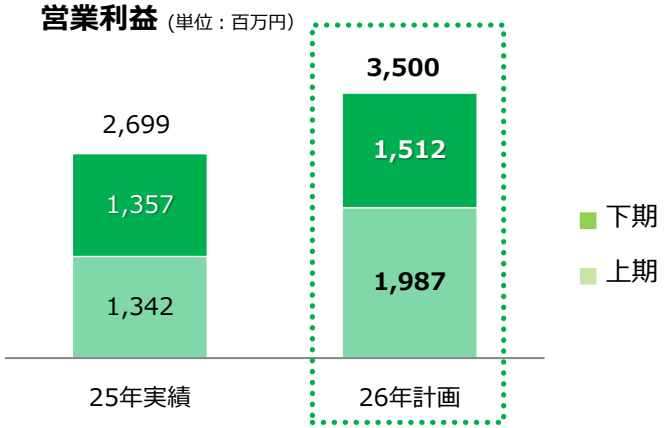
通期計画

(単位：百万円)	25年 実績	26年 計画	前期比 金額	前期比 率
売上高	12,336	**15,500**	+3,163	+25.6%
営業利益	2,699	**3,500**	+800	+29.6%
営業利益率	21.9%	**22.6%**	+0.7pts	−

売上高 (単位：百万円)



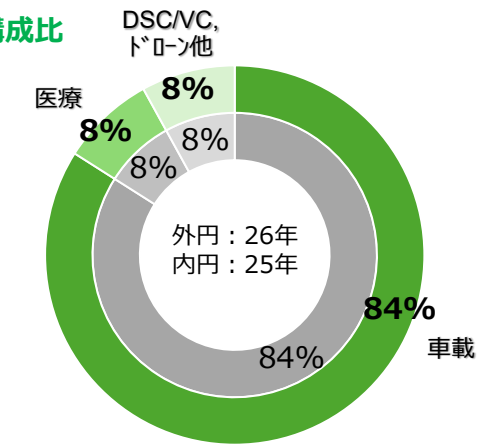
営業利益 (単位：百万円)



売上高内訳

		25年 実績	26年 計画	前期比 額	前期比 率
金額 (億円)	車載	103	**130**	+27	+26.0%
	医療	10	**13**	+3	+29.9%
	DSC/VC,ﾄﾞﾛｰﾝ他	10	**12**	+2	+18.3%

通期売上構成比



Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅲ.長期ビジョン／次期中期経営計画「Value Up29」骨子

※6月16日開示済み参考情報

Ⅲ-1. 長期ビジョンの定量目標刷新、達成に向けた次期中期経営計画の位置づけ

将来の目指す姿



持続的な企業価値向上と最大化に向け、
レンズ専業メーカーから、
総合光学・センシングソリューション企業へ

“撮り、測り、つなぐ” 技術の事業化、
2035年長期ビジョン実現へ
向けた成長基盤の盤石化



中期経営計画
『Vision23』
2021～2023

- ポートフォリオ最適化
- 技術テーマの創出・育成
- 機能戦略の構築
- 人材育成・組織活性化

中期経営計画
『Value Creation26
ver2.0』
2024～2026

- ポートフォリオ最適化の深化
- 新規事業の育成・創出
- 還元政策の拡充
- サステナビリティ戦略の推進

次期中期経営計画
『Value Up29』
2027～2029

- **オーガニック／インオーガニック戦略の両輪での成長戦略に転換**
- **新たな事業ポートフォリオ確立**
- **新規事業の社会実装と収益化、事業開発体制の構築**
- **経営管理手法の変革**
- **戦略に連動した人的資本経営への進化**

– 新たな定量目標 –

持続的に	ROE 20 % 以上
売上高	2,000 億円 以上
うち新規事業	200 億円 以上

– 従来の定量目標 –

売上高	1,000億円企業
新規事業売上高	100億円

持続的な企業価値向上

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.

TAMRON
Focus on the Future

Ⅲ-2. 次期中期経営計画の主要目標

■ **2029年には持続的なROE20%以上の達成に向け、継続的な利益成長と、積極的な成長投資、株主還元強化によるBSコントロールを断行。ROE20%以上であれば、配当性向60%でDOE12%以上を見込む**

資本効率目標

ROE **20%以上**

（2029年には持続的に達成）

売上高・利益	株主還元	資本構成
売上高（2029年） 1,200億円以上 営業利益（2029年） 250億円以上	配当性向 60%または DOE 8%の高い方（2027年以降） （⇒**ROE20%以上かつ配当性向60%でDOE12%以上**） 追加還元 約180億円 （次期中計期間末までに）	自己資本比率 75% （2029年目安）

長期ビジョン実現に向けて成長投資を加速させた上で、BSコントロール実行、還元充実

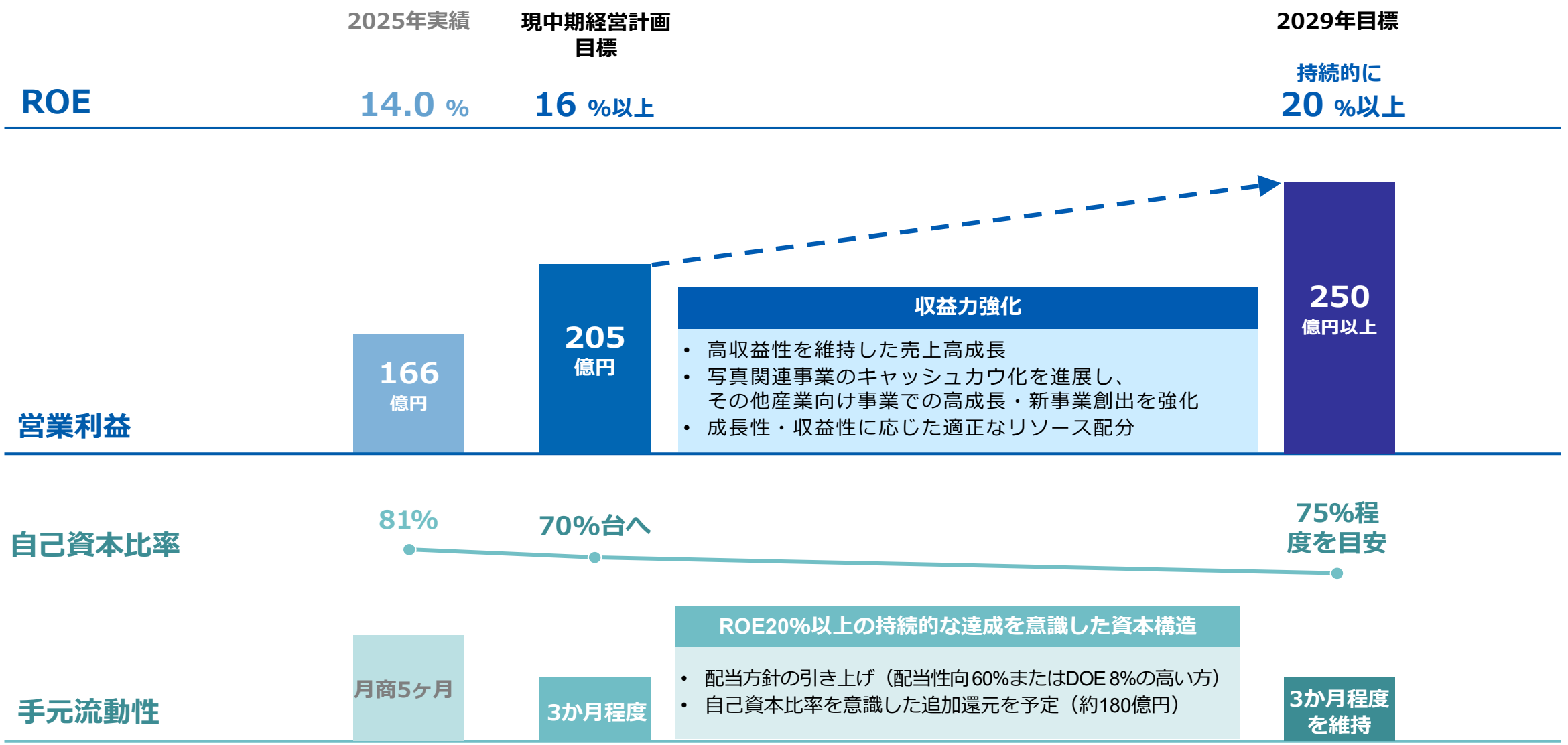
（ご参考）現中期経営計画（Value Creation26 ver2.0）の経営目標

ROE16%以上	売上高950億円以上、営業利益205億円以上	配当性向40%（DOE3%を下限目安） 総還元性向60%

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.

TAMRON
Focus on the Future

Ⅲ-3. ROE目標達成に向けたロードマップ

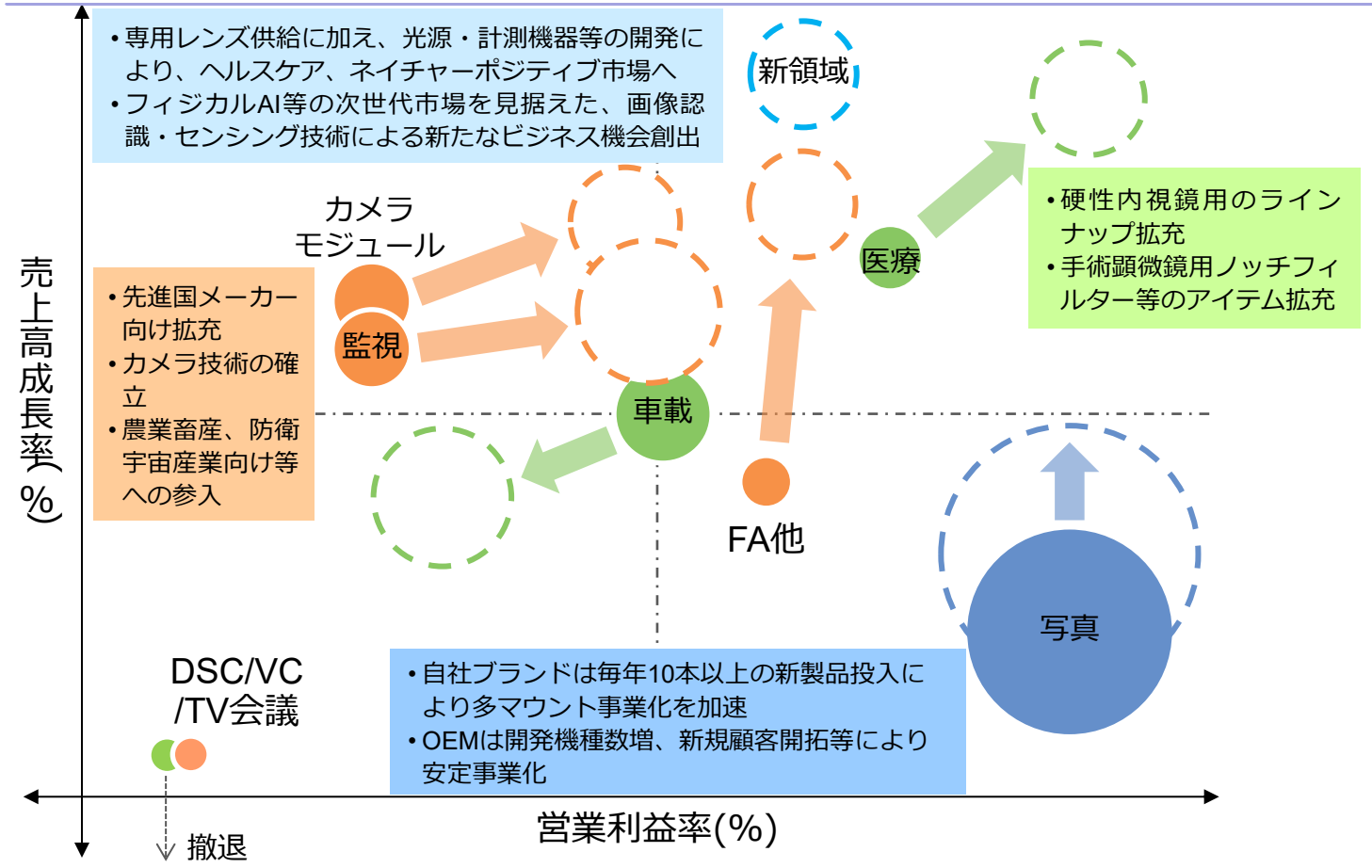


Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅲ-4. 事業戦略

- **高収益性を維持した売上高成長（写真関連事業のキャッシュカウ化進展、産業向けでの飛躍的事業成長）**
- **各事業の成熟度や成長性・収益性に応じた適正なリソース配分によって、持続的な事業成長基盤を構築**

事業ポートフォリオの変革



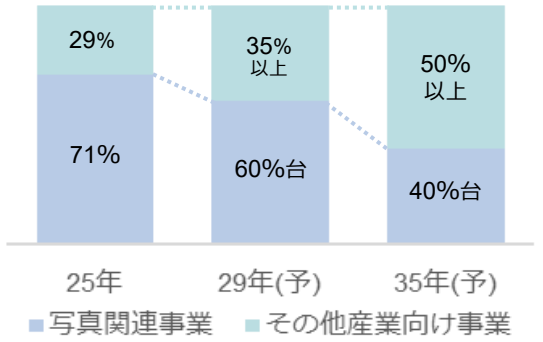
産業向け事業：CAGR 15% 以上

高成長事業の収益性強化と高収益事業・新事業への積極投資による拡大・創出
⇒**次世代の事業の柱を確立し、持続的な事業成長基盤**を構築

写真関連事業：CAGR 5% 以上

効果的な投資によって高収益性を維持しつつ安定成長
⇒**次世代への投資を支える収益基盤化**を進展

<売上構成の推移>



Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅲ-5. 財務戦略① キャッシュアロケーション

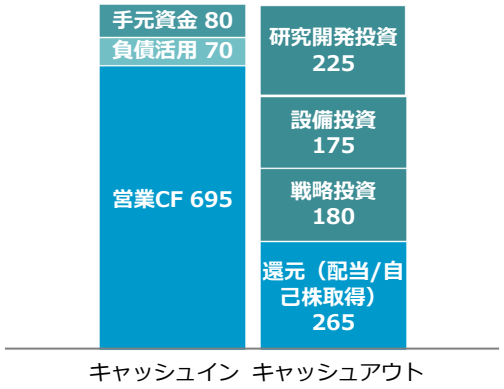
(億円)

■ **現預金を活用**
現預金水準を月商3か月程度目安に削減

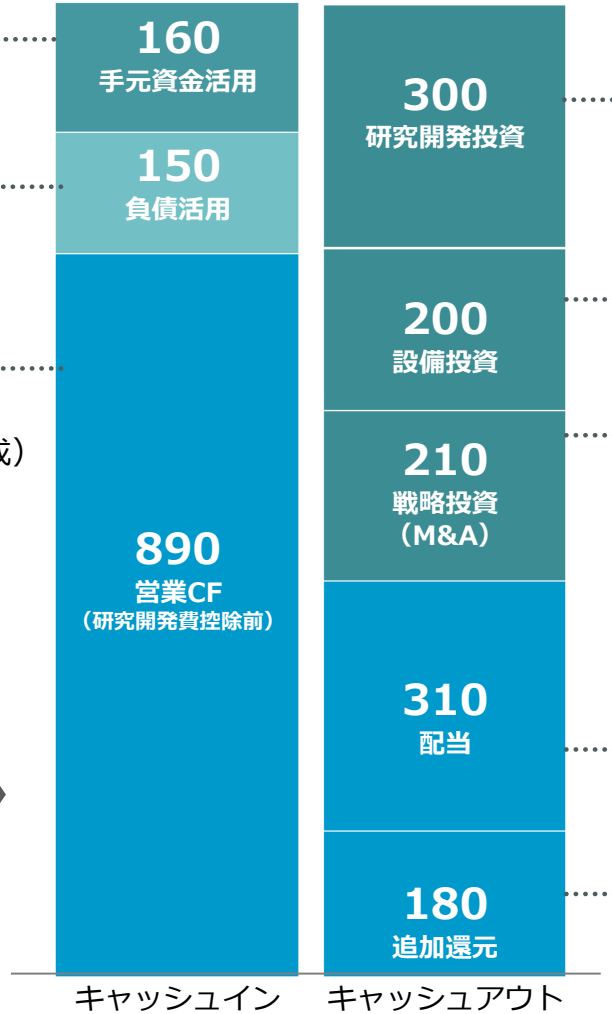
■ **負債の活用**
財務状況を踏まえた負債の活用

■ **営業CF**
収益力強化により安定的にCF創出
（2029年にはROE20%以上を持続的に達成）

<ご参考>
『Value Creation26 ver2.0』の目標値



次期中計期間（2027－2029年）キャッシュアロケーション



成長投資加速

現中期計画比：**投資額1.2倍以上**

■ **研究開発投資**
研究開発費比率（対売上高）9%以上
うち20%を新技術/新事業創出に充当
（AI、次世代光学技術などの先端技術領域を含む）
人的資本への投資拡充

■ **設備投資**
既存事業の収益拡大に向けた投資
うち30%を成長分野/新事業創出に充当

■ **戦略投資（M&A等）**
非連続的な成長に向けた投資枠
（AI、ヘルスケア、ネイチャーポジティブ関連等の次世代成長領域へのアプローチ強化）

※ 未消化分があれば、一部を次期中期経営計画にスライド、残りを株主還元に充当
※ M&A実施は、成長性（PER）への寄与のみならず、資本収益性（ROE）への影響も考慮

■ **配当**
配当性向60%またはDOE8%のいずれか高い方（次期中期計画以降）を基準に配当額を決定

■ **追加還元**
次期中計期間末までに約180億円の追加還元を予定（自己資本比率75%程度の達成を意識）

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅲ-5. 財務戦略② 株主還元

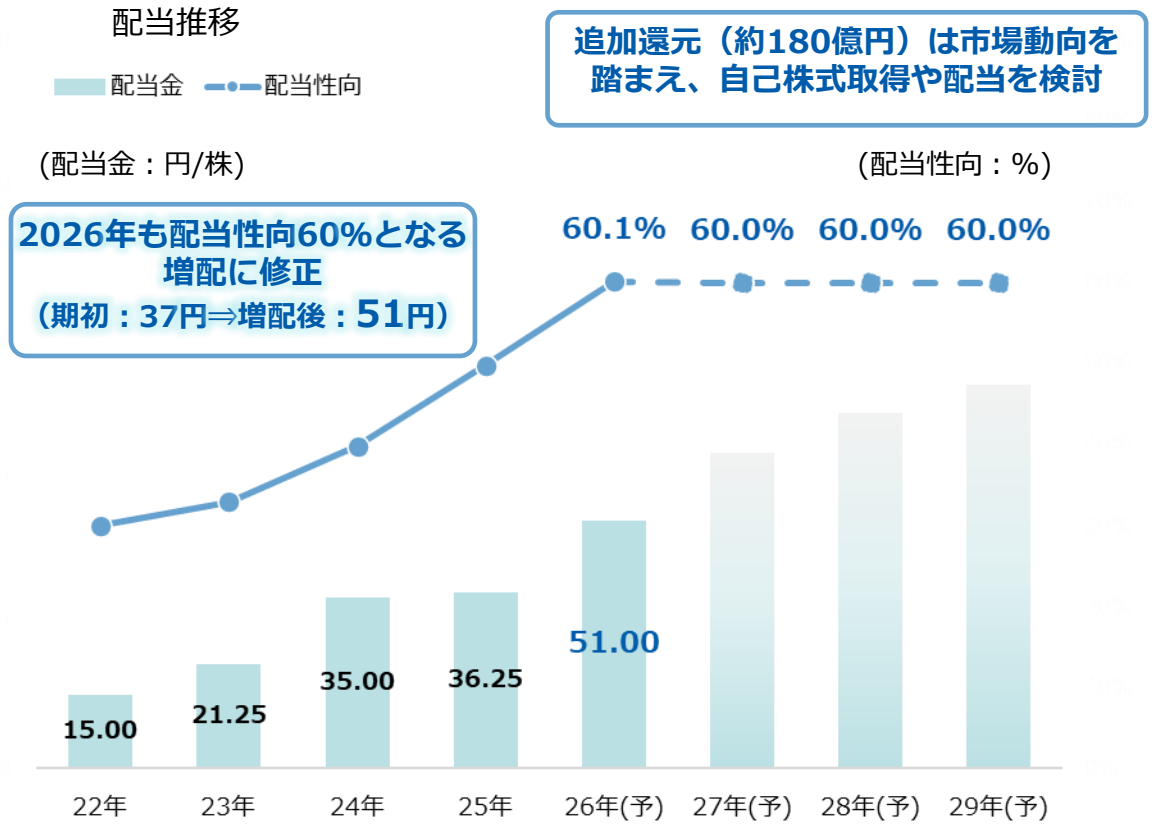
- **より長期的かつ安定的な利益還元を実施するため配当水準を引き上げ**
- **加えて、2029年末までの自己資本比率75%程度への達成のため、約180億円の追加還元を予定**

還元政策

2027年より配当は
配当性向60%または**DOE8%**の
いずれか**高い方**を目安に決定
（⇒**ROE20%以上かつ配当性向60%でDOE12%以上**）

＋

自己資本比率75%程度の達成に向け、
次期中期計画期間末までに
約180億円の追加還元を予定



Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅲ-6. サステナビリティ

■ **長期的な企業価値向上と中期経営計画の実効性強化に向け、サステナビリティの取り組みを推進**

■ **マテリアリティの見直しも含め、サステナビリティ戦略と推進体制を強化**

E 環境 Environment



◆ **GHG排出量の削減、資源循環社会に向けたサーキュラーエコノミー施策実行**
- Scope1、2・・・2029年27%削減(2015年比)
  ※30年：30%削減、35年45%削減、50年：ゼロ
- Scope3　・・・削減に向けた取り組み開始

◆ **自然共生社会の実現に向けた生物多様性の保全と、ネイチャーポジティブへの貢献**
- TNFDフレームワークに基づく評価および情報開示の推進
- ネイチャーポジティブ市場における光学技術を応用した事業の創出

S 社会 Social



◆ **戦略に連動した人的資本経営への進化**
- 動的な人材ポートフォリオ構築、人的資本投資拡充による人的資本の最大化
- 知・経験のD&I、知的資本の可視化・高度化による競争力向上
- DE&Iの進化とリスキル・学び直しの機会の提供、支援
- 従業員向け株式報酬制度等の導入を通じた、中長期的な企業価値向上に向けた従業員との価値共有およびリテンション（人材定着）の強化

◆ **非連続的な発想、オープンイノベーションで変革に挑戦する企業風土の醸成、エンゲージメントの強化**

G ガバナンス Governance



◆ **長期ビジョン、中期経営計画の実効性ある監督に向けた取締役会の強化**
- 独立性の向上、スキルマトリクス見直し、多様性の向上
  （女性、他社経営者等）

◆ **中期経営計画実現に向けた報酬制度の改定**

◆ **CxO制の導入による権限委譲と意思決定の迅速化、全社視点の戦略実行推進**

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.

Ⅲ-7. TSR向上に向けて　PBRロジックツリー

TSR向上
相対TSRを上回る向上の実現

⇑

BPS向上

×

PBR向上
中長期的な企業価値向上

要素	対応の方向性	具体的な取り組み方針
ROE向上 資本効率性向上 29年には持続的にROE20%以上	**収益拡大**	✓ **持続的にROE20%以上** ✓ 高収益性を維持した売上高・利益成長 **長期ビジョン売上高目標**　：**2,000億円**以上 **次期中計（～29年）売上高目標**　：**1,200億円**以上 **営業利益目標**：　**250億円**以上
	資本効率の向上と適正化	✓ **自己資本比率引下げ** 25年：**81%**→29年：**75%**（目安） ✓ **手元流動性の適正化**　目安：29年に**月商3か月分**程度 ✓ **キャッシュアロケーション方針開示**（次期中計3年間） Cash In　**営業CF**　　**：890億円**（研究開発費控除前） Cash Out **投資**　　**：710億円**、**株主還元：490億円**
PER向上 成長期待の醸成 資本コストの低減	**成長ストーリー構築**	✓ **非連続的な成長に向けオーガニック＋M&A枠210億円** （未使用分は一部を残して株主還元へ） ✓ M&Aは、成長性（PER）への影響のみならず、資本収益性（ROE）の影響も考慮
	株主還元の強化	✓ **配当性向60%**または**DOE8%**の**いずれか高い方** （ROE目標を踏まえれば、**DOEの目線は12%以上**） ✓ **自己資本比率75%程度**達成に向け**追加還元約180億円** ✓ **株主優待の導入検討**：共通優待ポイント型優待
	サステナビリティIRの強化	✓ **GHG排出削減、CE施策実行、自然共生社会への貢献** ✓ **戦略に連動した人的資本経営**への進化 ✓ **取締役会の強化、報酬制度改定、CxO制の導入** ✓ **IR説明会を年4回程度**開催

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅲ-8. 2026年2月公表　長期ビジョン、ビジョンステートメント

撮り、測り、つなぐ。
人と自然の健康を創造する企業へ

75年以上にわたり光を捉える技術を磨き、社会に感動と安心を届けてきたタムロンは、
その歴史と技術を、人と自然が健やかに共生する未来へつなげていきます。

見えない世界を“撮り、測り”、課題解決へ“つなぐ”――
細胞や血液の状態など身体の情報を撮り、測り、医療・ヘルスケアの進化につなぐ。
森林や水質、大気の状態など生態系の変化を撮り、測り、豊かな自然を取り戻すための活動につなぐ。
その実現に向けて、私たちは培ってきた光学技術と、センシング・解析技術を融合させ、深化させていきます。

“つなぐ”とは、多様な価値が交わり、新たな可能性が芽吹くことだと、私たちは考えます。
人と人、企業と企業、技術と感性、人と自然、そして現在と未来を“つなぐ”――

私たちは、総合光学・センシングソリューション企業として、
人と自然の健やかな共生と、喜びと感動にあふれ、安心して暮らせる「心豊かな社会」を、
未来へ確かにつなげていきます。

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅲ-9. 総合光学・センシングソリューション企業とは

clarification

「レンズ専業の光学メーカー」ではなく、光の力で社会課題を解決できる
システムそのものを創り、顧客に直接提案していく企業への変革を表現

レンズ専業の光学メーカー

– コンポーネント供給 –

「光を捉える部品」を提供

- 自社ブランド交換レンズ、OEM交換レンズ
- 監視・FA・車載・医療等の産業に向けた光学レンズの供給

総合光学・センシング ソリューション企業

＋高度センシング×AI

– 光学システム、サービス供給 –

「光の力で課題を解決する装置」を提供

- 自社ブランド交換レンズ、OEM交換レンズ
- より多様な産業に向けた光学レンズの供給
- 産業向けには光学レンズに高度なセンシング技術・AI/画像処理技術等を垂直統合した光学システム、サービスの供給

フィジカルAI向け センシングシステム

生体センシング向け システム

環境センシング向け システム

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.

TAMRON
Focus on the Future

Ⅲ-10. 総合光学・センシングソリューション企業として狙う有望領域

■ **コアとなる技術や強みを転用し、成長性高く付加価値を生み出せる領域に絞って、事業機会の拡大、新規事業の探索を行い、総合光学・センシングソリューション企業への進化と長期ビジョン達成を目指す**

	領域	市場の将来性*5	高まるニーズ	当社の強み・優位性
事業機会の拡大	FA関連装置	**需要拡大かつ精密化/AI実装** • 人材不足が人手代替を加速 • 半導体等の品質基準厳格化 • AIで不定型作業へも適応 FA/マシンビジョン世界市場*1 CAGR 8.9%（億ドル）1,274（2024）→ 2,987（2034）	**FAの"目"として高解像かつ安定した画像品質** • 高解像度/耐歪み性能 • AI使用に耐えうる画像品質	**厳格な要件を持つ顧客から支持される高い光学設計力** • 温度変化への耐久性と撮影範囲・解像度の安定を両立
	医療機器（硬性内視鏡など）	**需要拡大かつ小型化/高度化** • 低侵襲治療の需要拡大 • 単孔式手術増による小型化 • 蛍光観察/AIナビで適応拡大 硬性内視鏡世界市場*2 CAGR 6.8%（億ドル）104（2025）→ 200（2034）	**小型かつ医療に耐える安定した品質、赤外線領域対応** • 画像品質を保ち小型化 • 蛍光観察(赤外線領域)対応	**高度な品質対応力と供給安定性の両立** • 分光技術、多層膜技術、波長制御技術など独自の技術
新規事業の探索	ヘルスケア	**遠隔モニタリング市場拡大** • 高齢化や疾患慢性化、在宅ケアシフトで日常的な医療情報収集需要の拡大を想定 遠隔患者モニタリング世界市場*3 CAGR 12.8%（億ドル）281（2025）→ 656（2032）	**診断に足る品質と使い易さを両立した測定方法** • 医療用途に耐える測定品質 • 継続容易性（非接触式等）	**医療機器で培った高い品質と非接触式の測定技術** • 医療領域での実績と経験 • 測定用途に応じた波長制御
	ネイチャーポジティブ	**自然資本の測定市場勃興** • 自然資本会計の企業活動への応用に必要な第三者認証に足る測定需要拡大を想定 ﾈｲﾁｬｰﾎﾟｼﾞﾃｨﾌﾞ日本市場*4 47兆円（2030）	**測定対象に合わせたカスタマイズと品質安定性の両立** • 環境×用途に応じ最適化 • 開示に耐える測定品質	**多分野で培った高い品質と対象に合わせた測定技術** • 監視・FAで培った技術力 • 測定用途に応じた波長制御

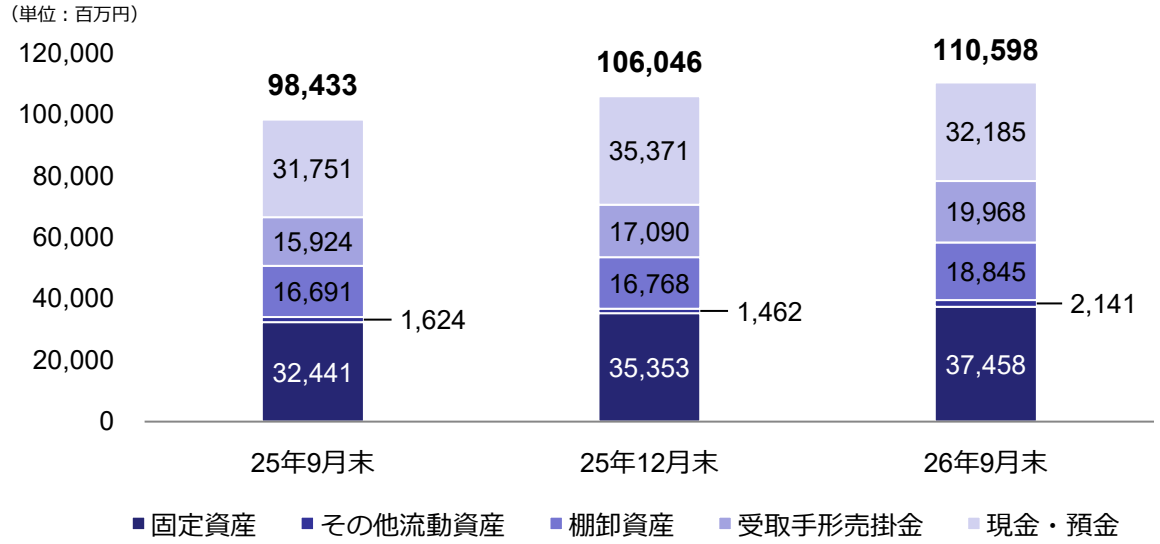
*1出所：Emergen Research『Factory Automation & Machine Vision Market (2024-2034)』(2025年10月)　*2出所：Global Market Insights『硬性内視鏡市場 サイズとシェア 2025–2034』(2025年8月)
*3出所：Global Information『遠隔患者モニタリング市場』(2026年3月)　*4出所：環境省『ネイチャーポジティブ経済移行戦略 参考資料集』(2024年3月)
*5：*1～*4の市場予測については、資料末尾の「将来の事象に係る記述に関する注意」も必ずご参照ください

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON Focus on the Future

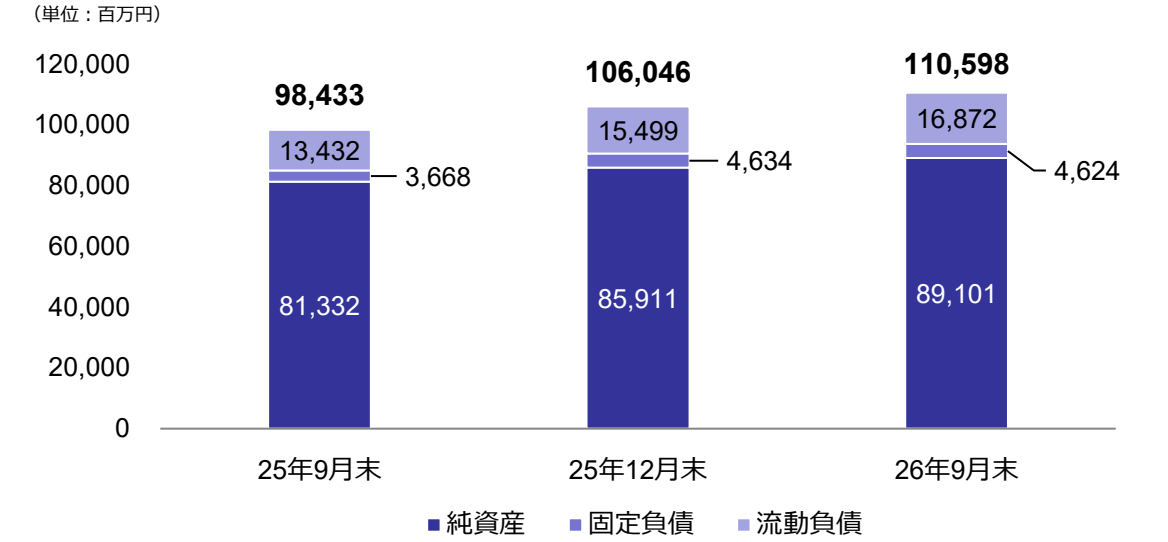
Ⅳ.参考情報

Ⅳ-1. 財政状況

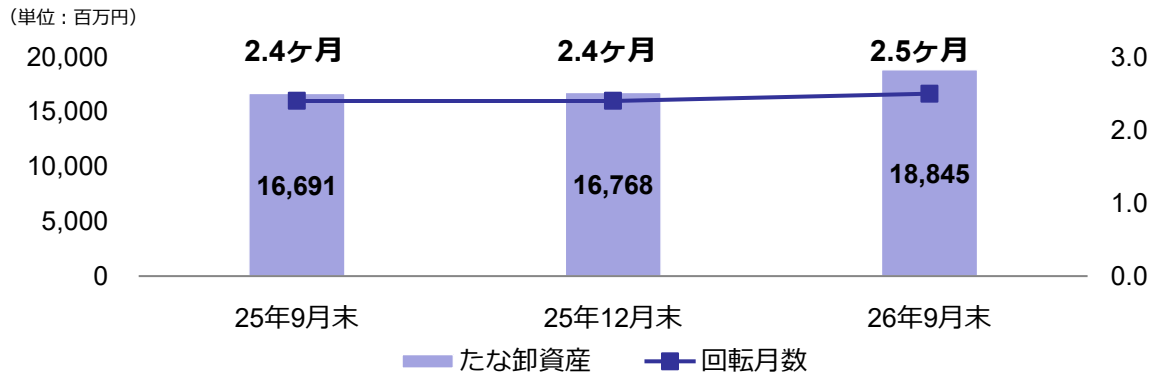
資産



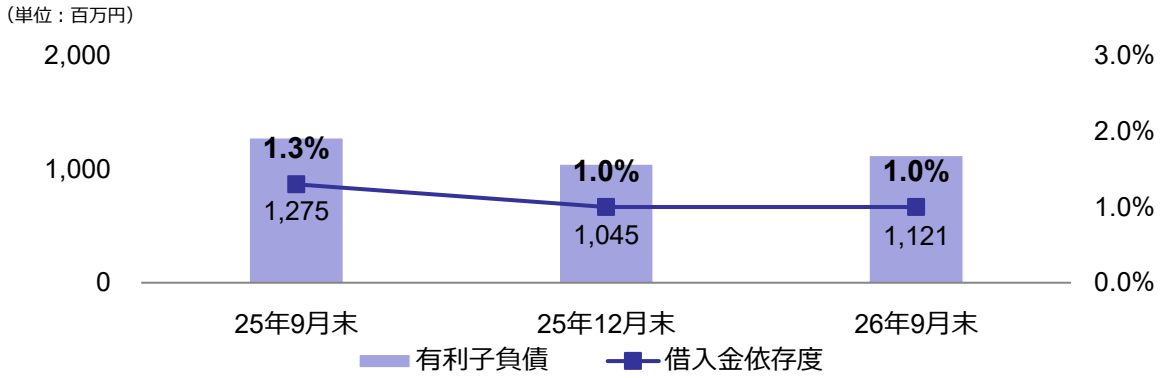
負債・純資産



棚卸資産



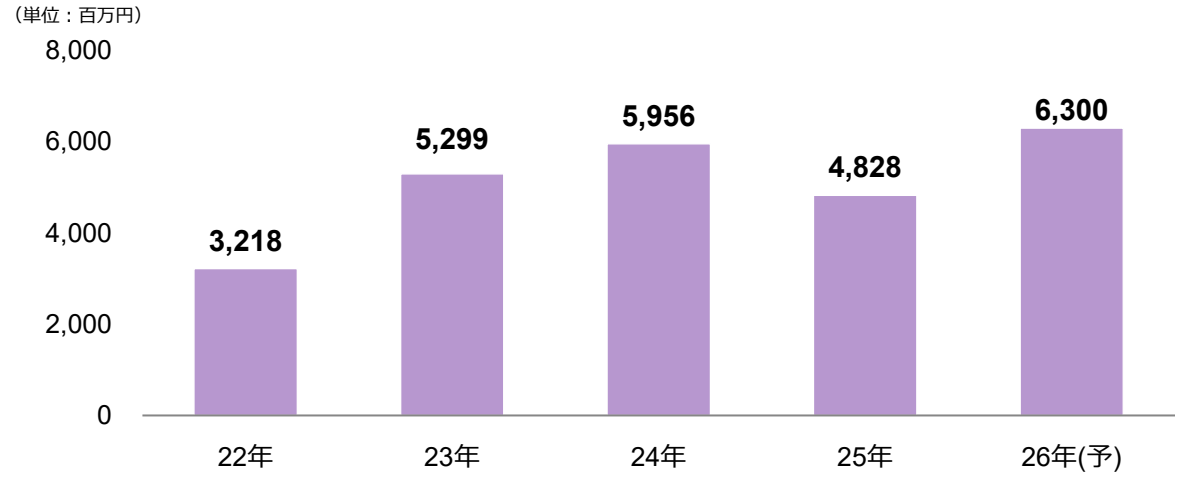
有利子負債



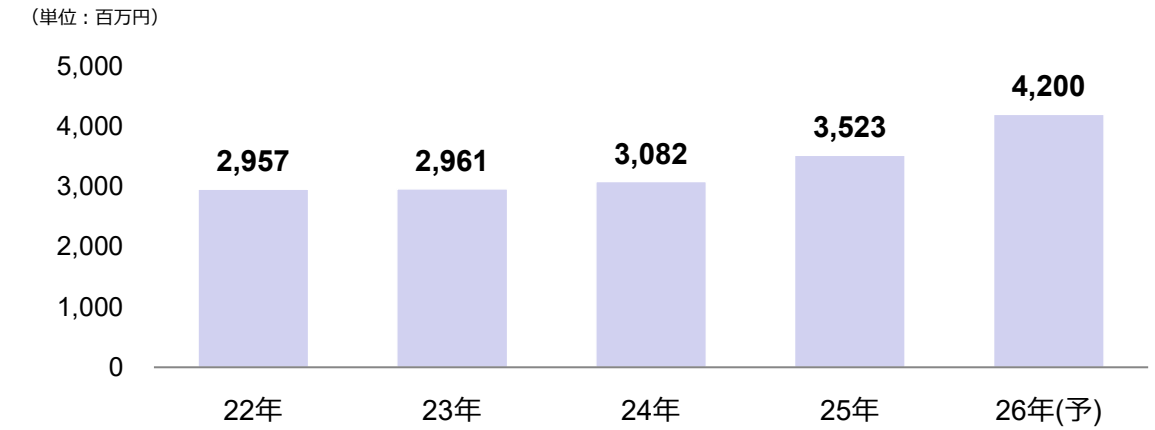
Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅳ-2. 設備投資額、減価償却費、研究開発費

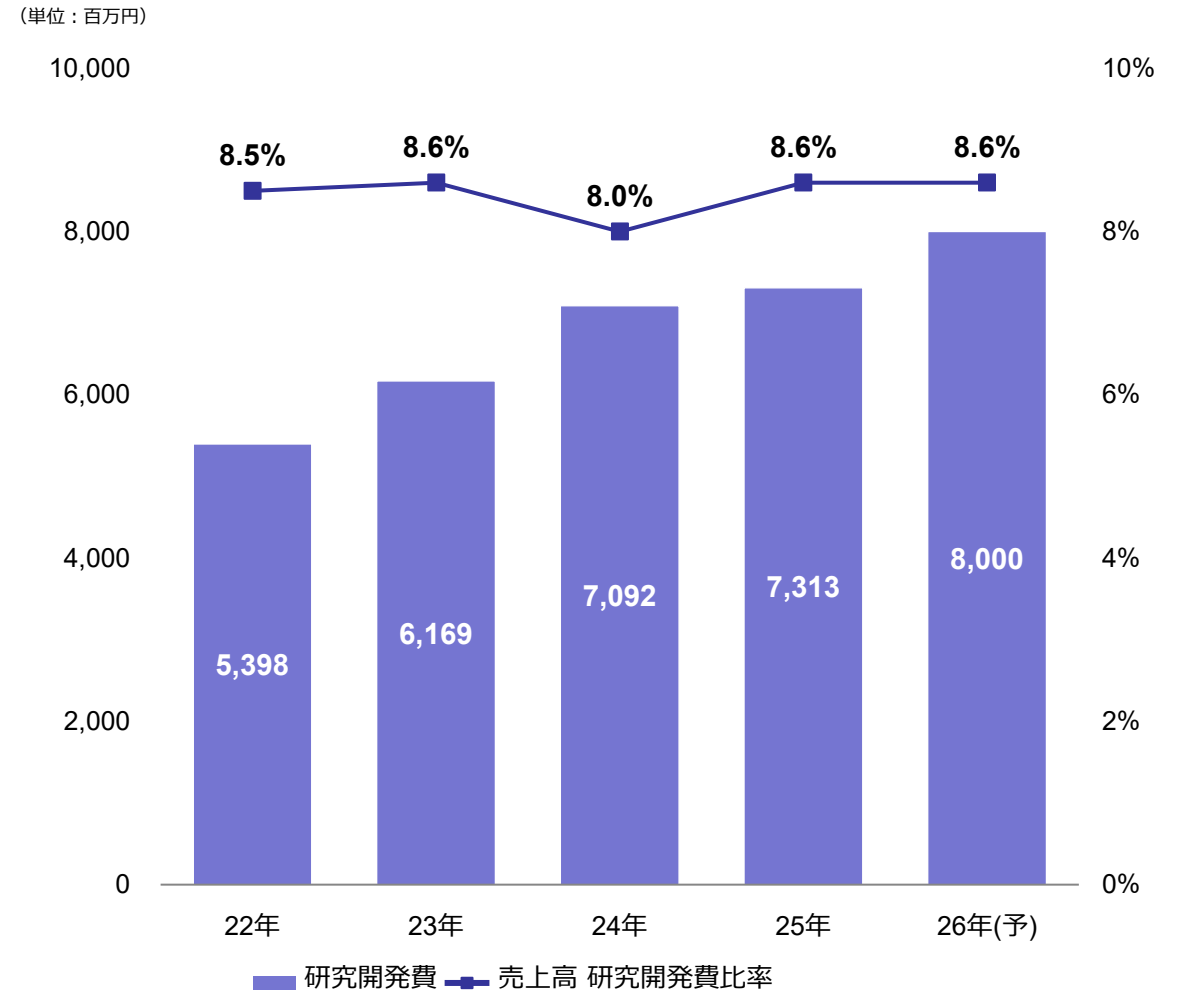
設備投資



減価償却費



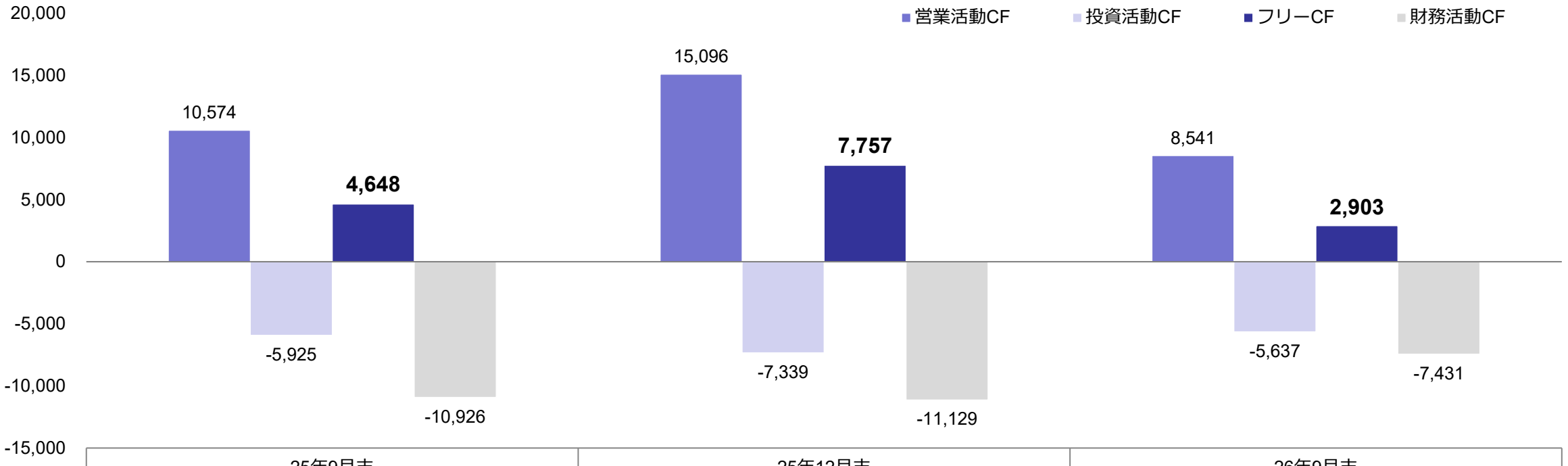
研究開発費



Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅳ-3. キャッシュ・フロー

（単位：百万円）

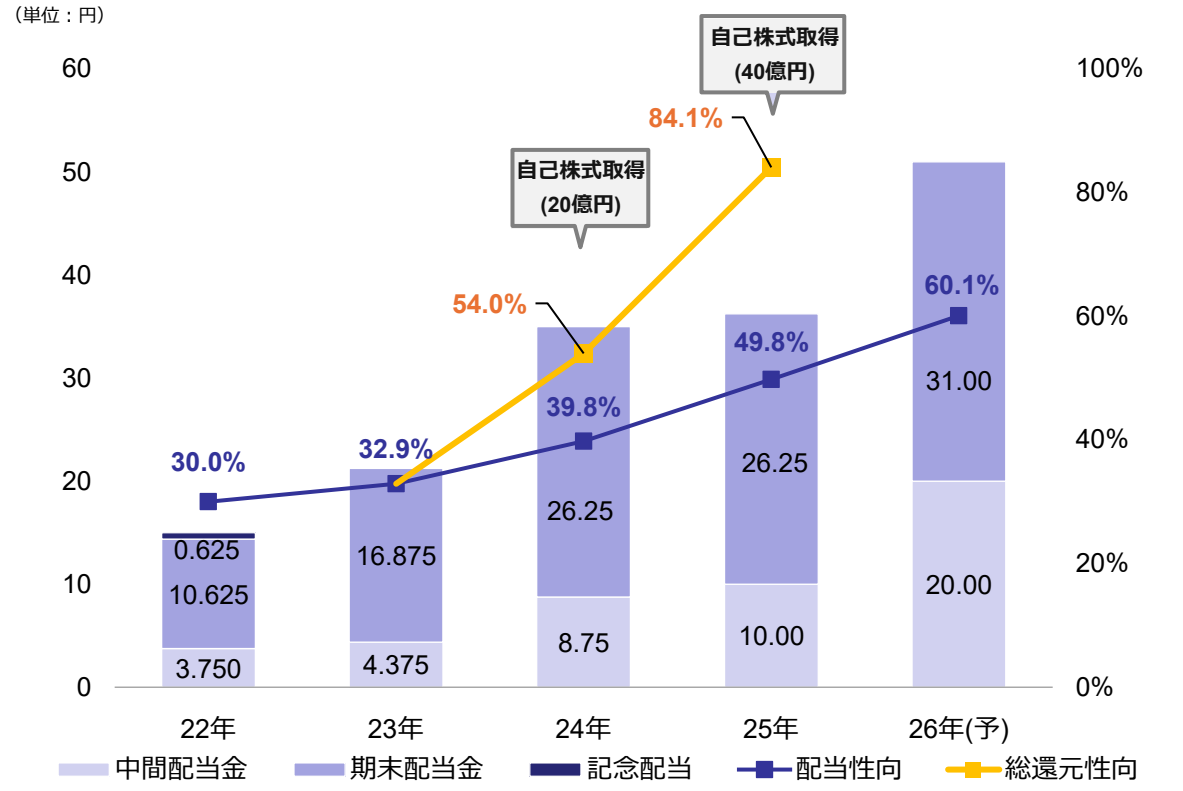


	25年9月末	25年12月末	26年9月末
営業活動CF	10,574	15,096	8,541
投資活動CF	-5,925	-7,339	-5,637
フリーCF	4,648	7,757	2,903
財務活動CF	-10,926	-11,129	-7,431

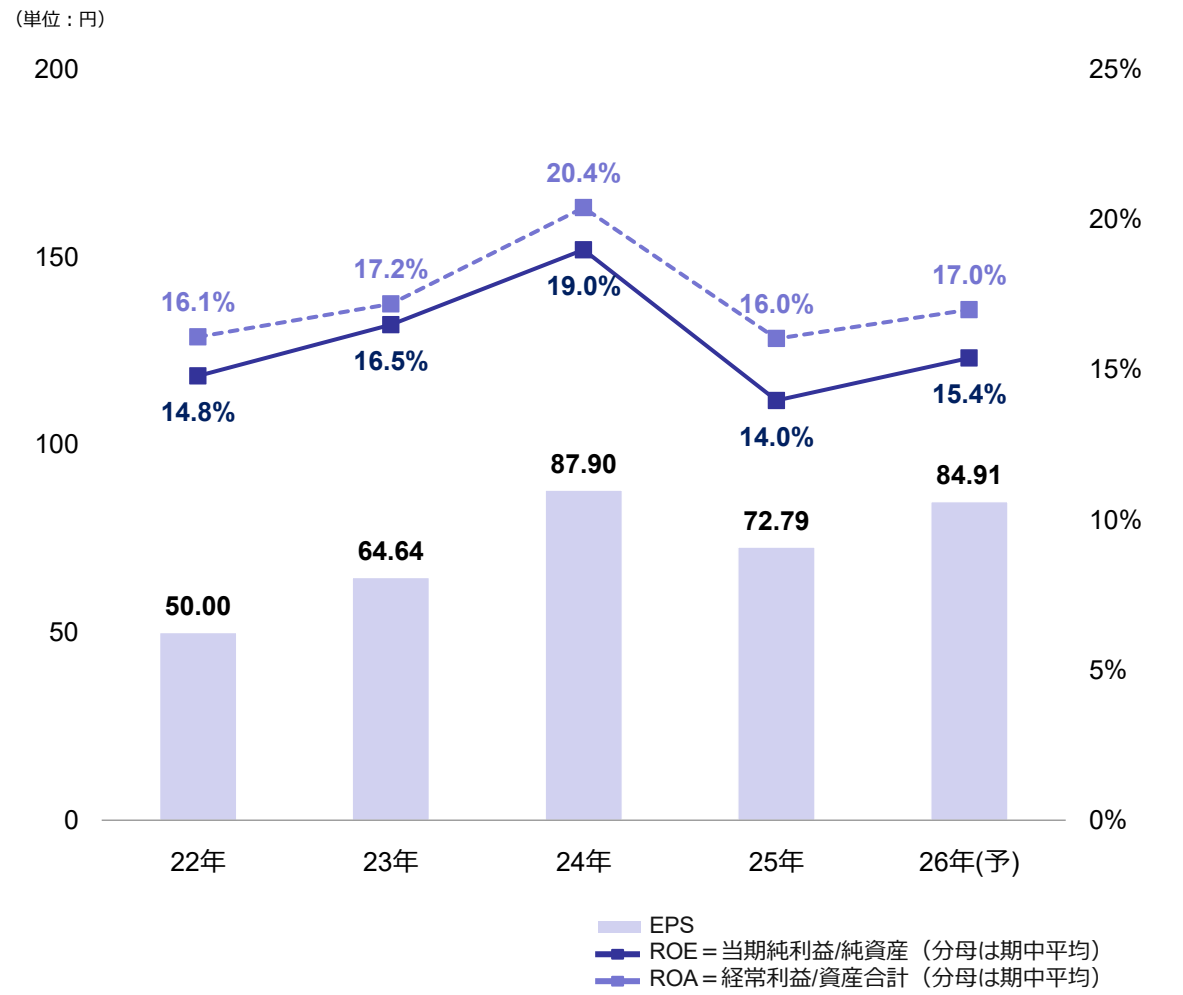
Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅳ-4. 配当金、主要経営指標

配当金推移



主要経営指標



還元政策

◆ 現中計：**配当性向40%**程度（**年間配当金20円**を下限）、**総還元性向60%**

◆ 次期中計：**配当性向60%**または**DOE8%**の高い方を適用。＋**追加還元約180億円**

➡**26年配当についても配当性向60%を目安に実施予定**

※2024年7月に1対2、2025年7月に1対4の株式分割を実施。　配当金、EPSについては、当該株式分割調整後の数値を記載

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future

Ⅳ-5. 為替影響

26年Q3累計　為替影響額

	25年Q3累計	26年Q3累計	影響額	
			売上高	営業利益
USD/JPY	**148.10**	**158.68**	+26.3億円	+3.2億円
EUR/JPY	**165.75**	**184.23**	+7.1億円	+5.9億円
他通貨	—	—	+8.1億円	+5.5億円
合計	—	—	+41.5億円	+14.6億円

（前期実績に対する影響額）

26年下期　為替感応度

	為替レート前提	1円の変動 (円高) による影響額	
		売上高	営業利益
USD/JPY	160.00	-1.7億円	-0.4億円
EUR/JPY	180.00	-0.4億円	-0.3億円

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.

将来の事象に係る記述に関する注意

1. 本資料は、2026年12月期第3四半期の業績実績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、
   当社の証券の購入や売却を勧誘・募集するものではありません。

2. 本資料に含まれる情報は、資料作成時点において入手可能なデータおよび当社が合理的であると判断した仮定に基づいています。
   実際の業績は、様々な要因により、本資料に含まれる予想とは異なる可能性があります。

3. 本資料に引用されている第三者機関の市場予測データについて、当社は独自に検証を行っておらず、その正確性、信頼性、
   または前提条件の一貫性を保証するものではありません。実際の市場動向は、今後の市場環境や社会情勢の変化により、
   提示されたデータと異なる場合があることにご留意ください。

4. 当社は、本資料の使用、または本説明会における発言によって生じた、いかなる損失や損害についても一切の責任を負いません。

5. 本資料の英語版と日本語版の間に相違がある場合は、日本語版が優先されます。

Copyright © Tamron Co., Ltd. All rights reserved.
TAMRON
Focus on the Future